

週報

令和 6 年 11 月 29 日

2024～2025年度 No.14

2024-25年度 国際ロータリーのテーマ

Rotary



国際ロータリー会長
ステファニーA.アーチック



ロータリーの
マジック

プログラム

S A A 西上裕一郎君

☆点 鐘

☆ロータリーソング斉唱

「それでこそロータリー」

☆四つのテスト唱和 職業奉仕委員会

☆誕生祝

☆食事懇談

☆会長の時間

☆幹事報告

☆委員会報告

①親睦委員会

・スマイルボックス報告

☆部内卓話

「ロータリー財団月間卓話」

橋本武敏君（代読）

☆点 鐘

現在会員						前々回の欠席者（11/1）							
30名						10名							
本日	出席	14名	欠席	11名		免除(a)欠席	2名	出席率	56.00%				
						免除(b)欠席	3名						
前々回	出席	15名	MU	1名		免除(a)MU	2名	修正率	61.54%				
						免除(b)MU	2名	出席率					
月別 出席率%	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
	本年度 78.04	71.13	69.88	65.22	57.70								
	前年度 77.26	83.66	87.66	84.78	89.40	90.22	92.55	95.45	88.38	88.46	89.64	75.41	

例会場
例 会
事務所
カンパーナホテル TEL(0959)72-8111
金曜日(12時30分～13時30分)
長崎県五島市末広町8-4
福江商工会議所内 TEL(0959)72-3108

会 長 片 山 雅 文
副 会 長 柳 山 靖 夫
幹 事 有 川 真 史
雑誌・会報委員長 市 村 篤

誕 生 祝

柳田 靖夫君(昭和38年11月12日生)



会長の時間

会長 片山 雅文君

皆様こんにちは。

11月も明日で終わり、今年も残すところあと一月となりました。

12月に入りますと忘年会、愛のチャリティと続き、今月は親睦委員の皆様には愛のチャリティ練習場を作っていただき感謝しております。

そこで、今日はロータリーの親睦について話したいと思います。

ロータリーの親睦 (fellowship)

「ロータリーは、親睦こそが第一」という言葉をよく耳にされると思いますが、「ロータリーの親睦」を正しく理解するには、実は“fellowship”と“friendship”の違いを知っておく必要があります。

“fellowship”は、「志を同じくする仲間、仲間意識、連帯感」という意味です。これは、チームや組織、団体など、目的や理念が同じ者同士の間柄で使われます。一方、“friendship”は、「親しみ合って仲よくすること、友情、親睦」という意味です。これは、目的や理念には関係なく、親しい友人の間柄で使われます。

ところがロータリーでは、前者の“fellowship”を「親睦」と訳したのです。これが、誤解を生じる原因となってしまいました。

1923-1924年度のR I 会長ガイガンディカーは、“ロータリーの親睦”とは「ロータリーという苗木が成長するために、その根に栄養を与えてくれる土壌である」と述べています。すなわち、ロー

タリーの成長を目的とした仲間同士の連帯の場(苗木に栄養を与える肥えた土壌)こそ、“ロータリーの親睦 (fellowship)”であると述べているのです。

苗木は、土壌が悪ければ十分に育ちませんが、土壌が良ければ立派に成長します。すなわち、“ロータリーの親睦”は「ロータリーの成長・発展」が目的だということです。1947-1948年度のR I 会長ケンドリックガーンジューは、ロータリーの本質とも言うべき「入りて学び、出でて奉仕せよ (Enter to learn, Go forth to serve)」という珠玉の言葉を残しました。

これにガイガンディカーの考えを当てはめれば、ロータリアンが情報や経験を語り合い、好意と友情を深め合い、自己改善を図り、奉仕の心を育て高める例会が「親睦という名の土壌」だということです。そして、例会で高められた奉仕の心で、各々の家庭、職場、地域社会において、より良い奉仕の実践に努めるロータリアンが増えていくこと一。それが、「ロータリーという苗木の成長」だということです。

要するに、「acquaintance = 知り合い」が「friendship = 友情」で繋がり、「fellowship = 志を同じくする仲間」となって、互いに語り合い、切磋琢磨し、協力しながら、ロータリーの理想達成を目指すことが、「ロータリーの親睦」だということです。だからこそ、ロータリーは「①ロータリアン同士の親睦を基盤に、②立派なロータリアンを育てながら、③価値ある奉仕を通じて、社会に貢献する世界的な団体」なのです。

なお、ロータリーでは飲食がつきものです。時には、酒宴の席もあるでしょう。食事や酒宴だけなら、“friendship”の間柄でも構いません。しかし、それが“fellowship”を築き深め合う内容だからこそ、「ロータリーの親睦 (fellowship)」に繋がるのです。親睦の目的は、あくまでロータリーの成長・発展、ロータリーの理想達成だということを忘れてはなりません。

幹 事 報 告

副幹事 松岡 孝博君

【当クラブ関係】

1. 来週の12月6日(金)の例会は18時30分開始で、例会終了後に「忘年会」を予定しております。詳細については後程、親睦委員会よりご案内があると思いますので宜しくお願い致します。

【地区関係】

1. ガバナー事務所より「後期指導者研修の日程について」のお伺いが届いております。
2. ガバナーエレクト事務所より「2025-26年度地区主要行事日程」のご案内が届いております。
3. 長崎北東ロータリークラブと長崎みなとロータリークラブより「例会休会・変更のお知らせ」が届いております。

【地域関係】

1. 12月8日（日）に「愛のチャリティ歌の祭典」が福江文化会館にて開催をされます。こちらについても、親睦委員会よりご案内があると思いますので宜しくお願い致します。

委員会報告

出席報告

- ◆11月29日（欠席者メイクアップ）
有川 真史君
- ◆11月29日（免除(a)欠席者）
植松 郁雄君 中村 博義君
- ◆11月29日（免除(b)欠席者）
清瀧 誠司君 吉田 泰之君 中村 栄治君
- ◆11月29日欠席者
才津 喜彦君 坂井 成光君 橋本 武敏君
山口 裕之君 宮脇 秀至君 森 正明君
市村 篤史君 野崎 薫君 浅野 謙君
井上 貴之君 村田 修君

親睦委員会

スマイル報告

- ◇山下 実君 県知事より、県民表彰をいただきました。
- ◇柳田 靖夫君 誕生祝ありがとうございます。
- ◇片山 雅文君 柳田靖夫さん、誕生日おめでとうございます。
- ◇戸田 博之君 //
- ◇張本 民雄君 //
- ◇山里 一郎君 //
- ◇平村 和弘君 //
- ◇小畑 和男君 //
- ◇松岡 孝博君 //

- ◇神之浦文彦君 //
- ◇山下 克己君 //
- ◇西上裕一郎君 //
- ◇寺澤 信義君 //

合計 13,000円
通算合計 261,000円

部内卓話

「ロータリー財団月間卓話」

橋本 武敏君（代読）

皆さんこんにちは。

まずは、長期間にわたり例会を欠席していますこと、お詫び申し上げます。

また、期間中に皆様より心温まる「お見舞い」を頂きましたこと、感謝申し上げます。

今日は、ロータリー財団委員会担当理事、および委員長として、ロータリー財団月間卓話を仰せつかっておりましたが、私事ではありますが、先月10月に母を亡くし、明日、神奈川県内のお寺で四十九日の法要を執り行うため、本日朝から東京まで移動することになり、例会出席が叶いませんでした。

従いまして、大変ご迷惑おかけしますが、代読という形で卓話をさせていただきます。

今月、11月はロータリー財団月間ということで、ロータリー財団についてお話しますが、まずは興味がある方もいらっしゃるかと思いますので、なぜ私がここまで長期で例会を休むに至ったのか、その原因である私の闘病の記録を少しお話しいたします。

まず、闘病生活の発端となった「自己免疫性肝炎」という病気です。今年5月22日に健康診断を受けたのですが、その2日後に検査機関から会社に電話があり、すぐに病院に行くようにと言われました。それから数日たって、五島中央病院に行って血液検査を行ったところ、ASTとALTという肝機能数値が、基準値の上限値が40とか45のところ1000を超えている状態で、即入院となりました。その後、CTやMRなどの検査で入退院を繰り返しながら、禁酒と薬の服用で2ヵ月半程度、様子を見ていたのですが一向に良くならず、最後は黄疸まで出る始末で、このまま死ぬのかと思ったほどです。最終的には、肝臓の組織の一部を取って検査する生体検査の結果、自己免疫性肝炎という病気であることが判明しました。

この自己免疫性肝炎とは、ウイルスやアルコールが原因ではなく、免疫の異常によって肝臓の細胞が破壊され肝炎が生じる自己免疫疾患で、国の指定難病となっています。初期段階では自覚症状がなく、私のように健康診断などをきっかけに発見されるケースが一般的だそうです。

自覚症状としては、体のだるさや食欲の低下のほか、肌や白目の部分が黄色くなる黄疸、ぼんやりしたり、寝入ったりしてしまう意識レベルの低下などの症状があります。そして、治療方法はステロイド投与になります。私の場合、最初に30mgのステロイドを投与し、肝機能が正常な状態に戻ったところで、2週間に2.5mgずつステロイドの量を減らしていく方法で、現在10mgにまで減りました。最終的には1mgまで減らすそうですが、一部の症例では、ステロイドを中止することも可能ですが、ステロイドの減量とともに再び悪化する場合があるので、ステロイドの投与を一生続けることが必要な場合もあるそうです。

このステロイド投与には様々な副作用があり、その副作用を抑えるために何種類もの薬をステロイドと一緒に毎日欠かさず飲まなければならず、それだけでも神経を使いますし、何といっても、お酒を飲めないというのが何よりもつらいです。これから一生お酒を飲めないのかと思うと、とてもさみしいです。

このように、自己免疫性肝炎という病気は、私の人生を一変させることになったわけですが、一方で良い意味で私の人生を一変させた治療についても紹介します。

それは、痔の治療です。

肝機能が低下している間、その原因を究明するため色々な検査をする中で、ついでに大腸の内視鏡検査もしてもらいました。その際、直径1cmと2cmのポリープが見つかり、切除してもらうことになったのですが、その手術の際、厳密にいうと腸内洗浄の段階で元々悪かった私の相棒、痔がとんでもなく悪化したため、大腸のポリープを切除した後に痔の治療もすることにしました。インターネットで色々調べたところ、長崎市内にあるクリニックでALTA療法という、痔を切らないで治すことができることを知り、そのクリニックで治療することにしました。

このALTA療法というのは、別名ジオン注射とも言い、頻繁に肛門から顔を出す内痔核に対して有効で、硫酸アルミニウムカリウム水和物・タンニンタ酸という薬剤を直接内痔核に注射するだけの治療です。実際、私も治療してもらったので

すが、治療した翌日から痔の脱出も出血もなくなり、十数年ぶりくらいに快適な排便が出来ました。まさに人生が一変した出来事でした。

ちなみに切除した大腸のポリープですが、2cmの方はおそらく癌だろうとお医者さんが言っていたのですが、結果は良性で癌ではありませんでした。

他にも、右足の付け根のところで巨大化し、コブのようになった「粉瘤（ふんりゅう）」という良性の皮膚腫瘍を手術で切除したり、海外出張中にコロナに感染したりと、とにかく踏んだり蹴ったりの人生最悪の数ヶ月間だったのですが、長い目で見ると、体のメンテナンスということで、充実した期間でもあったのかなと思います。

今現在、肝機能が正常な状態を保っているのが通常の生活を送っていますが、大変申し訳ありませんが、ステロイド治療の方が落ち着き、心身ともに万全な状態で復帰できるまで、もうしばらく例会の方もお休みさせて頂ければと思います。

それでは、最後になりましたが、本来のロータリー財団月間卓話に戻ります。

ロータリー財団はロータリアンであれば誰でも知っている名前ですが、実はその仕組みについてはあまりよく知らないという人も多いのではないかと思います。

そこで、今日は動画を用意しましたので、それを視聴して頂くことで、ロータリー財団の仕組みを改めて知って頂き、今後のロータリー財団の活動に益々ご協力いただける機会となれば幸いです。

動画

「ロータリー財団【仕組み編】（完成版）」再生

<https://youtu.be/-oiNXFG6rmY>



以上で、ロータリー財団月間卓話を終わります。ご清聴ありがとうございました。